



Annual Report

年次報告書 2021

プロフィール

YWCA(ワイ・ダブリュー・シー・エー/Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。1855年英国で始まり、今では日本を含む100以上の国・地域で活動しています。

日本では、24の地域YWCAと37の中学・高等学校YWCAが活動しています。

女性や子どもや高齢者など、弱い立場におかれている人たちの本来の力を取り戻し、共に生きる世界を実現する人材を養成しています。

日本YWCAのビジョン

女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切にす社会

日本YWCAのミッション

若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます

日本YWCAのバリュー（大切にしている価値）

1. キリスト教基盤

すべての人は神の前に等しい価値をもつと信じ、常に弱い立場に置かれた者の側に立たれたイエス・キリストの生き方に倣^{なら}って行動します。

2. 平和・環境

アジア・太平洋戦争の反省から生まれた平和憲法を活かします。

すべての「核」を否定し、軍事基地を含む暴力のない公正で持続可能な社会をめざします。

3. 人権

人種・国籍・宗教・性・出自・年齢などの多様性を互いに尊重し、ジェンダー平等のもとで誰もが自分らしく生きることができる社会をつくりまします。

4. セーフ・スペース

会員（ボランティア）が主体的にプログラムを推進し、すべての活動を、多世代協働によって民主的に運営します。

常に誰にとっても安全安心な空間をつくり、誰もがエンパワーされる場とします。

目次

▶ 若い女性のリーダーシップ養成

日韓ユース・カンファレンス

国連女性の地位委員会（CSW）

中高YWCAの活動

▶ 平和な社会を目指す活動

ひろしまを考える旅

選挙への取り組み

▶ 東日本大震災被災者支援活動

YWCA活動スペース「カーロふくしま」

リフレッシュプログラム

セカンドハウスプログラム

▶ 国内ネットワークと人材養成

▶ 国際連帯・アドボカシー

Generation Equality Forumへの参加と、女性・平和・安全保障と人道援助に関する協定への加盟

オンライン国際イベント

パレスチナへの連帯と支援

海外緊急支援

声明・賛同

▶ 寄付報告

日韓ユース・カンファレンス2021 ～LGBTIQ+と宗教～

若い女性がつくるオンライン上のセーフ・スペース

日韓の若者が、両国に共通する課題について学び、より良い社会に向けた解決策を考える国際プログラム「日韓ユース・カンファレンス」を、日本から24名・韓国から9名の参加を得て開催しました。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響のため、9～11月にかけて、月に1度、オンラインでの出会いを3回繰り返す形での実施となりました。

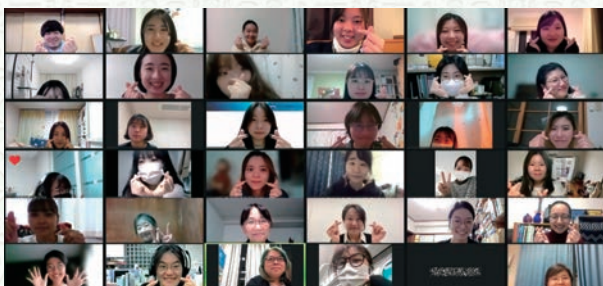
テーマは「LGBTIQ+と宗教」。LGBTIQ+という言葉やあり方は、多くの人にとって以前より身近なものと感じられるようになっていく中で、このプログラムでは、宗教、特に日韓のキリスト教コミュニティと聖書の中で、セクシュアル・マイノリティがどのような状況に置かれてきたのか／どのように理解されてきたのか、ということに焦点を置いて、学び合いました。

基調講演では、堀江有里さん（信仰とセクシュアリティを考えるキリスト者の会（ECQA）代表）より、聖書から学べることはセクシュアル・マイノリティへの抑圧や差別に加担するのではなく、規範に抵抗し「ノイズ」をあげ続けることだと、お話を伺いました。

参加者が韓国・日本、それぞれの状況について調べ、発表し合う中で、どちらの国にもセクシュアリティを理由とした差別を禁止する法律や同性カップルが法的に一緒になれる制度が存在しておらず、またトランスジェンダーを排除する差別的な動きがあることが報告されました。それに対して、希望を感じるような市民の取り組みについて学ぶ時間にもなりました。

最終回では、セクシュアル・マイノリティへの差別に抵抗していくため、日韓のユースである参加者にできることについて話し合いました。日本からの参加者は、啓発を目的にSNSで情報発信していくことを確認し、2021年12月～2022年3月にかけてSNSキャンペーンを展開しました。

3ヶ月に渡る本プログラムは、若者、若い女性を中心とした委員によって企画運営されました。今年はじめて参加したメンバー、何年も続けて参加し、日韓ユース・カンファレンスを大きく、豊かなプログラムにしてきたメンバー、関わり方のさまざまな若者のチームが、オンライン開催という制約の中、よりよい方法を模索し尽力しました。



オンラインで集った参加者

参加者の声

私の夢は、差別問題において人間が変わる大きな一歩の、小さなきっかけになることです。その思いを一層強めてくれたのが、硬い価値観を溶かしてくれた今回の日韓ユース・カンファレンスです。このような機会があったこと、とても感謝しています。



ディスカッションには、一人ひとりが書き込めるオンラインツール「miro」を使用。

第66回国連女性の地位委員会（CSW66）へのステートメント提出

毎年3月、米国・ニューヨーク国連本部で開催される国連女性の地位委員会（UN Commission on the Status of Women）は、各国政府代表者が世界中の性差別の課題と必要な行動を協議・決議する場であると同時に、数千のNGOから参加者が集う場です。

2022年3月開催のCSW66は、気候変動・環境・減災をテーマとして行われました。

日本YWCAは、国連経済社会理事会との協議資格を持つNGOとして文書提出を行い、原子力発電に頼らない気候変動対策、そこにおける若い女性のリーダーシップの役割の重要性、温暖化に対する日本の責任などに関する要望を表明しました。

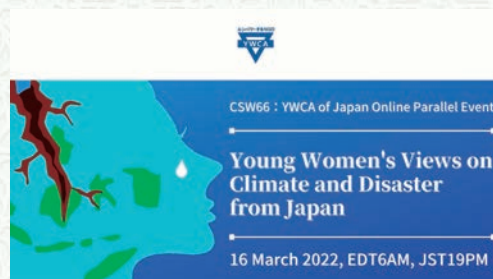
CSW66パラレルイベント

「日本からの気候と災害に関する若い女性の視点」

2022年3月16日（水）@オンライン

CSW66に合わせて実施されるNGOイベントとして、日本YWCAは「Young Women's View on Climate and Disaster from Japan（日本からの気候と災害に関する若い女性の視点）」をオンライン実施。発表者となった6名の若い女性が、日本の災害と家父長制に関する状況、災害に際し女性やセクシュアル・マイノリティの人々が直面する困難、災害対応ガイドラインと地域ごとのリスク、法的観点から見たジェンダー不平等などについて解説し、これらの問題に取り組んでいく上での若い女性のリーダーシップについて提言しました。世界中から79名のオンライン参加があり、活発な質疑応答も行われました。

開催準備を通じ、発表者一人ひとりが、それぞれの「できること」を誠実に出し合い、互いにエンパワーしながら実現したパラレルイベントとなりました。



CSWパラレルイベント告知フライヤー



参加型のオンラインイベントとして実施

中高YWCAの活動

2020年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行で実施が困難でしたが、2021年度には3つの地区カンファレンスのオンライン開催が実現しました。東京YWCAや京都YWCAのユースがワークショップを提供するなど、中高YWCA参加者が「少しでも年上」の人たちに出会う機会にもなりました。2022年には中高YWCA全国カンファレンスをオンラインにて実施します。

東北・北海道地区

- 日 時：2021年8月4日（水） 参加校数：6校 参加人数：57名
- テーマ：平和

関東地区

- 日 時：2021年8月2日（月） 参加校数：8校 参加人数：105名
- テーマ：これからのリーダーとは～セーフ・スペースをつくりだすこれからのYWCA

関西地区+西南地区

- 日 時：2021年7月29日（木） 参加校数：11校 参加人数：145名
- テーマ：コロナ禍の今、多文化共生とどのように向き合っていくべきか



各学校ごとに参加、共有画面で発表を共有



発表パネルの一つ。中高YWCAでの活動の様子

平和な社会を目指す活動

『核』否定の思想に立つ」を具現化していく歩み

「ひろしまを考える旅」は、核兵器による惨事を二度と繰り返さないために、平和の大切さを学び、平和な世界を実現したいと願い、広島で実施する2泊3日（オプションツアー参加の場合は3泊4日）のプログラムです。2020年、2021年度は、COVID-19の感染拡大の影響をうけ、現地での旅は実施できませんでしたが、1971年に始まった平和な世界を目指す旅は、2021年に50周年を迎えました。

ひろしまを考える旅～50年の歩みを越えて～

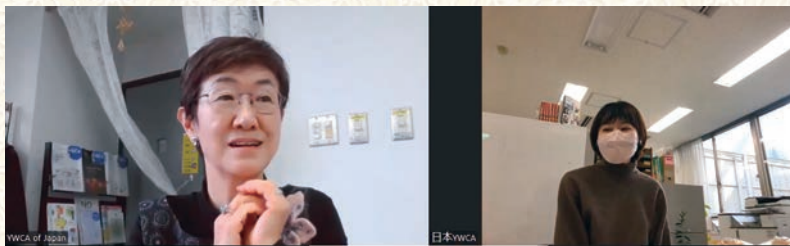
いまだに収束の見通しが立たない新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行のもと、「今できることは何か」と考え、「ひろしまを考える旅50周年記念サイト」を2020年8月6日に開設し、2021年度はユースボランティアが活動を継続しました。

50年の歩みをユースたちが知ろうと、さまざまな角度から調べ、言語化し、これまで「ひろしまを考える旅」を担ってきた方々にインタビューも行いました。今後は、日本YWCAのサイトで公開していく予定です。



上: 50周年記念サイト

下: コースによるインタビューの様子



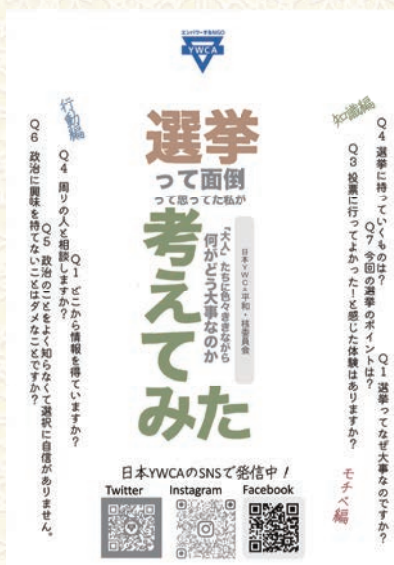
参加者の声

文章や資料で勉強していると、その被害の規模や実態、被爆前後の街の雰囲気を知ることができないことを痛感します。

伝えようとする人々の努力と技術の助けを借りながら、想像力を持って、今は見えなくなっている当時の人々の生活、そこで起こった出来事を丁寧に学んでいきたいと思いました。
(ひろしまを考える旅50周年特設サイトより)

選挙への取り組み

2021年は、衆議院議員選挙が行われました。「一人ひとりが大切にされる社会」の実現のためには、今の政治を変える必要があります。日本YWCAの担当委員会はそもそも「選挙とは何か」「投票するとはどういうことか」「若い人たちに気づらず、選挙に関心を持つにはどうしたらよいか」などを考え、SNSと紙媒体で発信しました。次回の選挙もその次も、今回の取り組みを活かして発信を続けます。



選挙特集SNSコンテンツ

東日本大震災被災者支援活動

YWCA活動スペース「カーロふくしま」

のべ432名利用

コロナ禍だからこそ、女性と子どものセーフ・スペースを

「カーロ」はイタリア語で「親愛なる」「大切な」を意味し、YWCAの東日本大震災被災者支援の活動拠点として、2012年11月福島市に開設しました。福島に住む女性や子どもたちを対象に、震災後の生活や放射線量による不安や悩みを安心して話し・集い・学ぶためのセーフ・スペースとなるよう、さまざまな活動を行っています。

小中学生のための学習支援「カーロでスタディ」は2年目を迎え、12月には初めて参加者と講師との「クリスマス交流会」を実施しました。今の福島を伝える「おはなし会」では、大学院生や高校生を話題提供者に招き、新たな視点・テーマで実施しました。在ドイツのジャーナリストが見た東京オリンピック開催と福島の問題を考えるなど、オンラインならではのプログラムとなりました。

- カーロふくしまおはなし会（3回開催）
- 2019年の台風19号で浸水被害を受けた保育園へ絵本寄贈
- そのほか、パステルシャインアート教室、保養団体への会場提供など



カーロふくしまおはなし会「福島のわたしが呼びかける平和への想い～高校生平和大使活動を通して～」(2021年11月27日開催) 福島県と広島県の高校生平和大使 (Zoom画面より)



絵本寄贈のボランティアで集まった利用者の方や福島YWCAのみなさん

利用者の声

毎月2回の勉強会を僕は楽しみにしています。

中学生になって勉強はだんだん難しくなってきたけれど、分からない所を教えて貰っています。

僕がなかなか出来なくても、理解できるまで皆親切に教えてくれます。そのおかげで苦手な教科も少し自信が持てるようになりました。(カーロでスタディ参加者)

リフレッシュプログラム

2021年度実施プログラム数：3

未来への安心のために

全国各地の地域YWCAが主催し、会員・ボランティアと共に運営する「リフレッシュプログラム」。福島県在住の子どもたちを中心に、県外で中長期に滞在し、線量を避け心身ともにリフレッシュしてもらうプログラムです。YWCAならではのチームワークで運営されるプログラムは好評で、毎年参加を楽しみにしているリピーターも多いのが特徴です。

2021年度も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）はプログラムに大きな影響を与えましたが、各地域YWCAが工夫を凝らし、オンラインを使っの同窓会や福島の今を知るおはなし会など多彩なプログラムが実施されました。

セカンドハウスプログラム

家族でリラックスする「もうひとつのわが家」

セカンドハウスは、福島県内および放射線量の高い地域に居住する家族やグループ、単身女性を対象に、自宅と同様にリラックスして過ごせる家族型滞在保養プログラムです。

家族単位で利用できる強みを活かし、「いつでもあなたを待っています」というセーフ・スペースとしての思いと、活動の趣旨に賛同してくださる大家さんから住宅を無償で提供していただき2021年度も運営を続けることができましたが、COVID-19の影響を受け、利用を控える方が多くいらっしゃいました。セカンドハウスは、大家さんはじめ地域YWCAや近隣のボランティアの皆さんほか、たくさんの方々のご協力によって運営されています。

国内ネットワークと人材養成

コロナ禍の中で、学び合い伸ばし合うネットワークづくり

日本YWCAの強みの一つは、各地域の特色に応えた多様な活動であり、また、時にはその地域を超えてつながり、学び合うことができるネットワークです。

2021年度、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行が止まない中で、日本YWCAは、オンラインを中心に以下のようなプログラムを通じて全国的なネットワークと人材養成を支援しました。

▶ バーチャルde地域YWCA訪問

北は北海道から南は沖縄まで、大きな建物を持つYWCAもあれば、教会や地域の集会所、会員宅等に10数名が集まって活動しているYWCAもある、各地のユニークな活動をオンラインで「訪問」し紹介しています。各YWCA訪問記は日本YWCAウェブサイトでお読みいただけます。2021年度は8か所のYWCAを訪問しました。



左：福岡へのYWCAバーチャル訪問
右：仙台YWCA活動紹介

▶ 運営委員のためのワークショップ

各地域YWCAで中心的に活動する「運営委員」を対象に、「みんなの意見が活かせる会議」「ワクワクする活動のための会議」を目指し、互いの良いところを見つけ合いながら会議運営をブラッシュアップする参加型ワークショップを実施しています。2021年度には4グループ、のべ8回のワークショップを行いました。

▶ 若い女性の支援者支援講座

若い女性のエンパワメント事業の鍵となるファシリテーター、若者の支援者を養成するための、全5回の講座をオンラインで実施。延べ171名が参加しました。

▶ コアユース・ギャザリング

2021年5月9日（日）参加者18名・2022年2月13日（日）参加者16名

全国の地域YWCAで委員や職員として「若い女性のリーダーシップ」を体現し活動の中核を担うユースが、その立場ならではの課題や悩みを共有し、互いに支え合い、連帯して社会を変えるエネルギーを生み出す場としてオンライン開催しました。

▶ 会長会・ジェンダーに関する地域YWCA 活動交流会



1年に1回、5月に全国の地域YWCA代表者が集う「加盟YWCA中央委員会」に合わせ、「会長会」「地域YWCAジェンダーに関する活動交流会」を開催しました。「活動交流会」では、各地域で行われている活動紹介のほかに、ジェンダーに関わる「もやもやしていること」、自分の地域でジェンダーの課題に取り組んでいくためのアイデアなどを話し合いました。

活動交流会呼びかけバナー

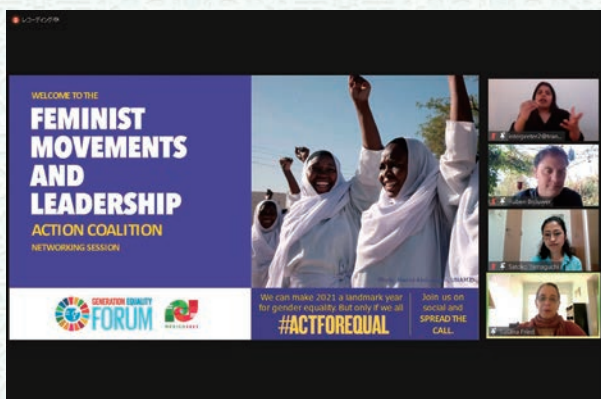
Generation Equality Forumへの参加と、 女性・平和・安全保障と人道援助に関する協定への加盟

着実にジェンダー平等な社会を築くための歴史的な会合

Generation Equality Forum (GEF: 平等を目指す全ての世代のためのフォーラム) は、ジェンダー平等と女性のエンパワメントのための国連機関UN Womenが呼びかけ、メキシコ・フランス両政府が世界中の市民社会と共に開催した国際会議です。女性のエンパワメントを目指す、最も包括的で先進的な国際的枠組みである北京行動綱領の採択から25周年を機に、ジェンダー平等に向けた資金確保と具体的な5カ年行動計画の策定を目的として企画・実施されました。全世界から約5万人がオンラインで参加し、日本YWCAからも代表者が参加しました。

GEFを経て結成された、各国政府や国際機関、市民社会、企業、慈善団体などさまざまな主体からなる複数の「連合体」(Coalition) は、それぞれの分野で、ジェンダー平等に向けた2026年までの5カ年行動計画を策定しています。日本YWCAは、その連合体の一つ「女性・平和・安全保障と人道援助に関する協定 (Women, Peace and Security and Humanitarian Action (WPS-HA) Compact)」に加盟団体として名を連ねています。

GEFの大きな成果は、400億米ドルの資金拠出や、各国政府などのステークホルダーにより、法整備を含む1,000を超える行動計画が誓約されたことです。日本政府も「ジェンダーに基づく暴力」と「女性・平和・安全保障と人道援助」の連合体に参加することを表明しています。今後5年間、GEFで誓約された行動計画が実現されるよう、YWCAとしても動きを注視し、また共に行動を起こしていきます。



左: パリ開催のGEF (2021年6月~7月)

右: メキシコ開催のGEF (2021年3月)

オンライン国際イベント

2020年に引き続き、対面による国際交流が難しくなる中で、新たな手法としてオンラインによる国際イベント・会議が数多く実施されました。世界YWCAは各国のYWCAメンバーが広く参加できる「ダイアログ」を複数回実施し、国際的なアドボカシー、会員制度、2023年に予定されている世界YWCA総会等についての協議を主導しました。世界YWCAが7月に開催した平和・紛争・正義に関する世界YWCAパネルディスカッション、9月の国際平和デーに際してインドYWCA・バングラデシュYWCAと共催したウェビナー、11月に韓国で開催された「アジアの平和と女性の役割」に関する国際セミナー」には日本YWCAメンバーが登壇して、日本YWCAの平和を目指す活動などについて報告を行いました。



世界YWCA主催パネルディスカッション

パレスチナへの連帯と支援

2021年5月、パレスチナ・ガザ地区に対するイスラエルによる武力攻撃により、子どもを含む多数の命が失われ、インフラと生活基盤が破壊され、7万人以上が住居を失い避難民となりました。この状況を受け、日本YWCAは、パレスチナYWCAとの連携によって以下のプログラムを実施しました。

- 2021年5月、オンライン署名「イスラエルによるシェイク・ジャラ地区の立ち退き強制・ガザへの武力攻撃に反対する声をあげてください」を呼びかけました（6月14日時点署名数：6,200筆）。署名は外務省中東アフリカ局中東第一課とオンラインで面会し提出しました。
- 2021年6月26日（土）、パレスチナYWCAとの共催でオンライン報告会/ウェビナーを実施し、現地からの報告を共有するとともに、日本からの支援を呼びかけました。
- 2021年8月11日（水）～9月15日（水）、クラウドファンディング・プロジェクト「ガザの子どもたちに心の支えを。アフタースクール・プログラム実施支援のお願い」を展開。193名から寄せられた1,238,500円の募金により、2021年10月24日～10月28日の期間、ガザ地区2か所の小学4年生から高校3年生までの少女100人を対象に、スポーツや音楽、専門家のサポートのもと色彩を通じて心を癒す「アート・セラピー」、自分の言葉で話すことを通じて心を支える「ストーリー・セラピー」、ガザ市内の遠足など、空爆を経験したガザの子どもたちが少しでもほっとできる時間を提供するプログラムが行われました。プログラムはパレスチナYWCAが連携する現地団体Juzoor for Health and Social Developmentを通じて実施されました。
- 2021年11月29日（月）のパレスチナ人民連帯国際デー、上記クラウドファンディングの報告会として、パレスチナYWCAとの共催でオンライン報告会/ウェビナーを実施しました。現地からの報告者たちは、ガザの子どもたちの言葉を紹介しながら、軍事封鎖下の日々の困難と空爆のショックの中で子どもたちが希望を失わないで生き続けるために、日本のような海外から心を寄せ、支援する人たちの存在がいかに大切かを語っていました。

また、日本YWCAは、イスラエル軍や入植者により脅かされるパレスチナの土地に世界中の人々がオリーブを植樹する「オリーブの木キャンペーン」（パレスチナYWCAと東エルサレムYMCAの共同事業「JAI」が実施）を応援しています。3000円のご寄付で1本のオリーブの苗木を植えることができます。2021年度は、日本YWCAから292本の苗木を植えるための募金を送金しました。

加えて日本YWCAは、パレスチナYWCAが実施している難民キャンプの女性や子どものためのエンパワメント事業や幼稚園運営を支援しています。



左上：クラウドファンディングで支援した、ガザの子どもたちのプログラム
右上：空爆の経験を話すガザの若い女性
左下：ウェビナーの様子

海外緊急支援

日本YWCAは、海外のYWCAと連携し、災害等の際には募金を呼びかけて、現地のYWCAの活動をサポートする形で緊急支援を行っています。2021年度には、2022年1月にトンガ沖で起きた火山噴火の被災者支援として、パプアニューギニアYWCA、ソロモン諸島YWCA、サモアYWCAが参加するNGO連合とトンガの女性団体を通じ、現地に支援を届けました。



トンガ：子どもたちへのケア



トンガ：支援物資

声明・賛同

- 「東京電力福島第一原子力発電所放射能汚染水の海洋放出に反対し、撤回を求めます！」声明発表（4月21日）
- 「イスラエルによるシェイク・ジャラ地区の立ち退き強制・武力攻撃を止めるための行動」の要請とオンライン署名（5月14日）
- 「重要土地等調査規制法案の廃案」の要請（5月31日）
- 「LGBTIQを含む性的マイノリティーの人権尊重」声明発表（6月1日）
- 「Korea Peace Appeal（朝鮮半島平和宣言）キャンペーン」賛同（7月29日）
- 「菅義偉首相その他の日本の政党党首に対し、バイデン政権による先制不使用・唯一の目的宣言に反対しないよう要請する日本の団体・個人からの公開書簡」賛同（9月3日）
- 「国連女性の地位委員会（CSW66）へのステートメント」提出（10月15日）
- 「Don't Nuke the Climate－温暖化対策に原発を使わないで－COP26」声明発表（10月17日）
- 「ウトロ連帯ヘイトクライム根絶声明」賛同（12月24日）
- 「「グリーン」でも「持続可能」でもない原発をEUタクソミーに含めるべきでない」欧州委員会宛て要請書に賛同（2022年1月11日）
- 「ロシアのウクライナ侵攻に対する日本YWCA 声明」発表（2022年2月28日）

寄付報告

2021年度も多くの
皆さまからご支援
をいただきました！

日本YWCA賛助費	1,595,000円
ピースメーカーズ募金 (うち、次世代育成資金 1,033,776円)	3,878,169円
東日本大震災被災者支援募金 (うち、カーロふくしまサポーター 619,000円)	2,283,005円
災害時支援募金 (パレスチナYWCA支援、ウクライナ支援、トンガ支援含む)	1,731,430円
オリーブの木キャンペーン募金	868,000円
ガザの子どもプログラム支援基金	1,261,500円
合計	11,617,104円

2021年度も、多くの皆さまからのご支援・ご協力を誠にありがとうございました。
日本YWCAは、2022年度も引き続き、平和で誰もが尊重される社会にむけた女性たちの主体的な活動を支援していきます。
引き続きのご支援・ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

代表理事 実生 律子・会長 藤谷 佐斗子

日本YWCAの活動をご支援ください。

募金の種類

※日本YWCAへの募金/寄付金(賛助費を含む)は、税額控除の対象になります。

- ピースメーカーズ募金 …… 平和を創りだす女性のリーダーシップ養成活動に用います。
- 東日本大震災被災者支援募金 …… 被災地の女性と子どもたちを支援する活動に用います。
- 賛助費 …… 日本YWCAの活動全般をご支援ください。
[一口年額]3,000円/5,000円/10,000円
- 災害時支援募金 …… 緊急支援活動に用います。
- オリーブの木キャンペーン募金 …… 一口3,000円で、オリーブの木1本をパレスチナに植えます。
寄付者には証明書が発行され、植樹された場所に寄付者の名前入りプレート
を置きますので、必ずお名前のローマ字表記をお知らせください。
- パレスチナYWCA支援募金 …… パレスチナYWCAが難民キャンプで運営する幼稚園の支援に用います。

募金方法

▶銀行振込

三井住友銀行 飯田橋支店 普通 1198743 (口座名) 公益財団法人日本 YWCA
ゆうちょ銀行 支店名 019 当座預金 023723 コウエキザイダンハウジンニホンワイドブリュシーエー
Eメールで ①募金の種類、②ご住所、③お名前を、また、オリーブの木キャンペーン募金の場合は、
④お名前のローマ字もお知らせください。(税額控除の書類、オリーブの木証明書を送付します)

▶郵便振替

00170-7-23723 (加入者名) 公益財団法人日本 YWCA
通信欄で ①募金の種類、②ご住所、③お名前を、また、オリーブの木キャンペーン募金の場合は、
④お名前のローマ字もお知らせください。(税額控除の書類、オリーブの木証明書を送付します)

▶クレジットカードで募金(つながる募金)

つながる募金からのご寄付は全て、東日本大震災被災者支援事業に使われます。

携帯からご寄付
される場合

ソフトバンクの場合 → 寄付金は毎月の電話料金に加算されます。
他の電話会社の場合 → 寄付金はクレジットカードでのお支払いになります。

右のQRコード
からアクセス



つながる募金

▶口座振替で募金、カーロふくしまサポーター募集中！

毎月の自動引き落としで、東日本大震災被災者支援事業の一つ「カーロふくしま」を支えてください。
お申し込みは日本YWCA (office-japan@ywca.or.jp) までEメールにて、
お名前・ご住所・電話番号・メールアドレス、毎月の引落希望額(500円/1000円)をご連絡ください。

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel: (03)3292-6121 Fax: (03)3292-6122 Email: office-japan@ywca.or.jp
Website: <http://www.ywca.or.jp>



Blessed Are the Peacemakers

-Matthew 5.9-